

●丹後王国「食のみやこ」

前回検証結果	継 続 ・引き続き、京都府北部エリアの地域経済へ寄与するのか検証しながら、将来を見据えた運営を行うこと。 ・利用者のニーズを分析し、利用者満足度を意識した施設の魅力づくりに取り組むこと。
対応・改善策実施状況、取組の成果	・地域活性化の拠点として、定期的に様々なイベントを開催した。イベントでは、園内テナントによる丹後産食材を活用したメニューの提供、地元出身のアーティストの起用等丹後地域の魅力を発信した。 ・EC サイトにて、丹後産のクラフトビール、ソーセージ及び米等を販売し、売上額は増加している。（販売額（税抜き）R3:58,270 千円→R6:114,900 千円） ・来園者アンケートを実施し、来園者の利用施設の割合や評価・要望等を把握している（R6：140 件）。 ・ドッグラン事業については、利用者の居住地等を分析（R5:524 件）し、地元利用の一定割合が確認できたことから、地元利用促進に向けた施策検討に活用している。 ・分析結果等を踏まえ、ドッグランの利便性向上のため「早朝ドッグラン」「夕焼けドッグラン」等の取組を行い、利用者ニーズに合致したサービス提供を進めた結果、R6 の利用は 2,019 頭となり前年（1,478 頭）を上回った。
なお残る課題・問題点	◆開業から年数が経過し、老朽化に伴う修繕・維持管理費の増加 ◆来園者数は近年20万人前後にとどまり、特定イベント時に利用が集中し、平常時の集客力は弱い。 ◆「食」を掲げながら目的地となる強い魅力や統一的なブランドが十分でなく、「食のみやこ」という施設名称と実態とのギャップが大きい。
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□「食のみやこ」とネーミングされた施設であるが、事業の多角化により、設置目的とは乖離してしまっているのではないか。 □本施設を目的に来場するには少々魅力不足であり、民間の知恵やアイデアを積極的に導入する仕組みが必要。 □単に来場者を担保する施策を講ずるのではなく、特定のコンセプトに沿ったコンテンツを立案し、興味を持ってもらうことが重要。
京都府の検証結果及び対応方向	要 改 善 <改善方策> ◎魅力ある施設となるよう将来を見据えながら、今後の施設のあり方を検討すること。 <今後の対応> ◎魅力ある施設となるよう、外部有識者等の意見も踏まえながら、将来を見据えた施設のあり方について幅広く検討する。